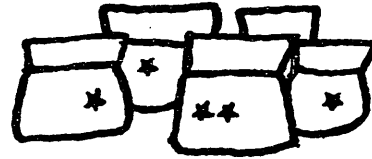


主要国の医療費の動向



(イギリス)

イギリスの民間団体である The Office of Health Economics (OHE) が 1970 年に発表した欧米 5 か国の医療費の推計を中心に、最近の主要国の医療費の動向をみてみよう。

OHE の推計によると、各国の医療費の伸び

は、1950年代よりも60年代の方がより急速であることがわかる。そして国別にみると、アメリカとイギリスの医療費の伸びが他の国のそれに比べてやや緩慢であることがわかる。また、アメリカ社会保障庁調査統計局 (ORS)

が行なったオランダと西ドイツの医療費の推計によると、両国の医療費の伸びは著しく、一般的なパターンを示している。

OHE の推計は、WHO が調査した1960年代初期の世界各国の医療費に基づいたものである。第1表は、5か国について WHO の1960年代初期の数字と OHE の1960年代後期の数字を GNP(国民総生産) との比率で示したものと、西ドイツとオランダについて ORS の数字を GNP との比率で示したものを掲げたものである。これによると、医療費の対国民総生産比は、カナダがもっとも高く、イギリスがもっとも低い。これは、1960年代初期の

第1表 各国の医療費 (推計)

(単位：%)

国	WHOの推計		OHEの推計	
	年	対国民総生産比	年	対国民総生産比
カナダ	1961	6.0	1968	7.25
アメリカ	1961—1962	5.8	1968	6.71
スウェーデン	1962	5.4	1967	6.26
フランス	1963	4.4	1967	4.90
イギリス	1961—1962	4.2	1968	4.68
ORSの推計				
オランダ	1963	4.8	1968	4.9
西ドイツ	1961	4.5	1967	5.7

第2表 各国の医療費および消費者物価の増加率

(単位：%)

国	期間	増加率		
		(A) 医療費	(B) 消費者物価指数	(A)-(B)
スウェーデン	1962—67	14.0	4.5	9.5
フランス	1963—67	13.2	2.9	10.3
オランダ	1963—68	12.5	4.5	8.0
カナダ	1961—68	11.8	2.7	9.1
アメリカ	1962—68	10.4	2.4	8.0
西ドイツ	1961—67	10.0	2.1	7.9
イギリス	1962—68	9.2	3.6	5.6

WHO 推計値によっても、また OHE の1960年代後期の推計値によっても同じである。すなわち、7、8年間において両国の位置は変わっていない。また、その他の国の位置もほぼ同じである。しかし、この序列は、医療費の増加率についてはあてはまらない。すなわち、第2表は、この間の医療費の増加率を消費者物価の上昇率との比較において示したものであるが、これによると、スウェーデンの場合がもっとも高く、ついでフランス、オランダ、カナダ、アメリカ、西ドイツ、イギリスの順となっている。いずれの国の場合も、医療費の増加率は、消費者物価の上昇率をはるかに上回っており、とくに、フランス、スウェーデンおよびカナダの場合が著しい。また、OHEの推計によると、アメリカとイギリスの医療費の年平均増加率はそれぞれ2.3%と1.8%で、スウェーデンの3.8%、カナダの2.8%、フランスの2.7%に比べて低い。

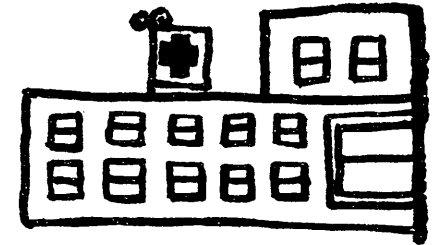
OHEの見解によると、カナダ、アメリカ、スウェーデン、フランスおよびイギリスの5か国は、1960年代の初めに比べて1960年代末

にはGNPの約2%ほど多く医療費を費やしたとみられている。これらの推計から、1970年代には各国とももっと多くの医療費の支出をすることになるだろう。

International Health Expenditures, *Social Security Bulletin*, December 1970, pp. 18-19.

(石本忠義 健保連)

疾病保険保護



(西ドイツ)

1970年4月の疾病保険保護に関する連邦統計局のマイクロセンサスによって、西ドイツにおける疾病保険保護の状況をみてみよう。

この調査の結果からわかったもっとも注目すべきことからは、人口の増加にもかかわらず、疾病保険に加入していない者の数は相対的にも絶対的にも減少してきているということである。すなわち、1966年4月において公的医療保険にも民間医療保険にも加入していない者は、全人口の1.7%であったが、1970年4月においては1.1%である。

ところで、疾病保険に加入している者のう

ち、約88%が公的医療保険に、また約9%が民間医療保険に加入している。民間医療保険に加入している者の数は、570万人である。疾病保険に加入していない者の数は70万人である。疾病保険に加入していない者を年齢階級別にみると、年齢が高いほどその数が多い。また、民間医療保険の加入者も、年齢が高いほどその数が多い。これに対して公的医療保険の加入者は、年齢が若いほどその数が多い。これは、職員に対する保険加入義務報酬限度額が自動的に引上げられていることに負うところが大きい。